

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400054		
法人名	社会福祉法人 幸鐘会		
事業所名	グループホームべにばら妹背牛		
所在地	雨竜郡妹背牛町字妹背牛406番地7		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんのケアについて、業務関係についてなど、必要時スタッフが気軽に話し合えて、皆が協力し合える職場環境。アットホームな雰囲気が良いケアにつながっています。  
地域の皆さんとの関わりを大切にしています。利用者さんにとっても、事業所にとっても良い効果を得られています。また、地域にとっても良い効果となるようにと思ひ活動を行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0197400054&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0197400054&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年11月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

妹背牛町に初めて開設されたホームは、妹背牛駅や保育所、幼稚園、警察署なども近くにあり、住宅街の中に溶け込むように立地しています。ホーム内は温かい日差しの中で、利用者と職員が、のんびりと一日一日を暮らしています。余暇を楽しみ、家族が面会に来て頂くのを待ち望み、満面の笑顔で応えられる姿が印象的です。夏にはドライブに出てレストランで食事、幼稚園の運動会では一緒に応援し、秋には園児が直接ホームを訪問し、お遊戯の披露があり、涙を流して喜ばれた様子は、家族も職員も一緒に感動の体験となっています。管理者は、地域福祉活動推進委員会のメンバーとして活動し、地域交流の一翼を担っています。クリスマスには、ホームで芸能発表会が開催される予定となっています。今後は、職員と共に地域への啓蒙活動や交流への呼び掛け、お誘い等を行い、地域に根差した頼れるグループホームとして邁進していく「べにばら妹背牛」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に添ったケアの実践に務め、その人らしい生活を送れるように努めている。	開設時、管理者と職員が一緒に作成した3項目の理念が玄関に掲げられています。「住み慣れた街で、その人らしく」を強調し、分かり易い内容となっています。職員は、生活の中で見られる利用者の表情が、明るく温かい雰囲気であることで感じています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事や町の催しに参加している。ボランティアの活用も行っている。	開設3年目であり、地域との関係作りを意欲的に行っています。管理者は、地域福祉活動推進委員会のメンバーとして活動し、交流の機会の一翼を担っています。幼稚園や保育所と交流もあり、利用者は運動会やお遊戯会を楽しみにしています。	地域の認知症やグループホームとしての役割の理解度が低く、少しづつ認識を高めていく取り組みが行われています。ホーム側から住民の方々へ積極的な働きかけや、お誘いで、地域の信頼できる福祉の拠点となることを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後、地域の人に皆さんへ認知症の理解を深めて頂ける様な活動を行っていきたい。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状や取り組みを報告し意見を頂き、反映できるようにサービス向上に努めている。	運営推進会議は定例開催され、利用者・家族・行政職員・包括センター職員・民生委員・社会福祉協議会代表が参加し、活動報告や意見交換が行われ、サービスの質向上に活かしています。研修状況や事故報告も明確にし、開かれたグループホームを目指し意見を求めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回の地域ケア会議に参加し、情報交換を行ったり、必要時連絡を取り合い協力関係を築いている。	毎月開催される地域ケア会議に出席し、福祉関係者と情報交換を行っています。医師や看護師の参加もあり、関係者と連携を深める機会となっています。行政へ相談や問い合わせ、介護保険の更新申請代行も行っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い身体拘束のないケアに取り組んでいる、施錠については夜間のみ行っている。	身体拘束廃止のマニュアルを作成し、職員は毎年研修を行い、正しい理解でケアに取り組んでいます。玄関の施錠・ベット周りの拘束もなく、車いすからの適宜移乗も行っています。止むを得なくセンサーマットを使用している方は、家族と相談し了解のもと、ケアプランに記載し転倒予防として検証に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で話し合い、虐待防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、学ぶ機会を設けたが、話し合いや活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約、改定は現在該当ないが、締結については十分に話し合い理解、納得に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や必要時は随時意見や要望を聞き反映に努めている。第三者苦情受付窓口を設置している。	家族の来訪時には、気兼ねなく話ができるような雰囲気作りに努めています。家族が遠方の場合には、電話で報告や便りで様子を伝えています。手書きの担当者からの便りは、写真付きの心温まる内容となっています。ホームでは独自にアンケートを実施し、要望に応えられる取り組みも行っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で意見や要望を取り入れている。	月1回の定例会議では、担当職員が情報を整理したアセスメントの報告があり、職員全員が、利用者一人ひとりの状態把握がされていることが分かります。会議で意見や提案が出され、利用者の生活の質向上・ホームの運営に反映しています。管理者は職員の様子を見て、個別に相談に乗ったりアドバイスなども行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を行うなど把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアを振り返る機会を作ったりホーム内外の研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は月1回の地域ケア会議で交流の機会があるが、スタッフは研修等で交流する他は機会はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの要望等に耳を傾けながら、思いを汲み取って関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を行い思いや要望を聞き信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望を聞き、必要な支援を行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する者としての関係を心がけているが、年々難しくなっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡をとりあい、常に本人の事を考え、支えていくことを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や郵便局等、希望に応じてなじみの場所へ出かけている。友人等の来訪時はゆっくりと過ごして頂けるよう支援に努めている。	職員は、以前の生活環境や馴染みの関係を大切にしたい支援に努めています。友人が面会に訪れた時の接待や、ゆっくり話が出来る環境作りに心掛けています。家族と墓参りや一緒に正月を温泉で過ごす計画もあり、以前暮らしていた自宅付近へのドライブで、思い出を感じ取って頂くこともしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないように配慮しながら、利用者同士に関わりを大切にし、懸け橋になるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が終了したケースは少ないが、ご家族と連絡をとったり、お見舞いなどに行っていた。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から話しを聞き、希望に添えるよう努めている。困難な場合は言葉や表情を汲み取り検討している。	職員が日常の気付きをメモに残し、担当者は毎月アセスメントシートに記入し、会議で報告しています。報告から計画作成者は、家族の意見も取り入れ、利用者にとって適切なケア内容になるように検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から聞き取りを行い、記録などから情報共有しながら把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引き継ぎや記録などで現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、スタッフ同士で話し合い作成している。	生活の中で繰り返される、行動・食事・排泄・入浴・衛生・体重など、様々な状況をチェックすることで、利用者の状況把握に努めています。業務日誌には、昼夜を通して細かく生活の様子が記載され、モニタリング・評価に反映しています。3ヵ月から6ヵ月毎に見直され、現状に即した介護計画が作成されています。	現状に即した介護計画書の目標が、どのように成果が上っているかの記録を、実践の結果から、目に見えるように記載することを期待します。記録内容が重複することなく、記録作業の軽減も図れる工夫も期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や毎月のケアカンファレンスで情報共有し実践に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとつひとつの問題点に対応し、柔軟に誠実な対応の支援ができるように努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は不十分。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を取り入れながら適切な医療が受けられるよう支援している。	入居前のかかりつけ医が継続され、職員が同行しての受診支援が行われています。医療連携体制で看護師の定期健康観察や、訪問診療でホーム内の生活状況を見て頂いての診察も行われています。受診や診療後の報告も適宜家族に行っています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報は常に看護師と相談している。診療所へも定期的に情報提供し支持をおおぎ、適切な支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院関係者と連絡を取り合い早期退院に努めている。関係づくりに関しては、管理者以外のスタッフは不十分。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関しては家族に口頭や文書で説明を行っている。	重度化や終末期に向けた指針・方針が整備され、同意が得られています。指針には、グループホームとして対応できる最大のケアについて細かく明示され、「住み慣れた街で、その人らしく」という理念に即した対応の在り方が記載されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い、マニュアルも作成しているが定期的な訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、定期的な訓練を行っている。地震や水害については、マニュアルを作成している。地域の協力体制は不十分。	スプリンクラー・緊急通報システムの設置、日中・夜間想定避難訓練を継続しています。町内に避難訓練の協力要請のチラシを配り、2名の方が参加しています。利用者の状況や避難の様子を見学して頂き、緊急時の必要性を確認して頂いています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しプライバシーを損ねない対応に努めている。	マニュアルをもとに毎年内部研修を行い、人格の尊重やプライバシー保護について確認しています。接遇委員会を中心に毎月会議を開催し、支援の中で気付いたことを洗い出し、振り返りの材料としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ずとは言えないが、表情や言葉から読み取り、または提案するなどして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間の流れは決まっていたり、外出などの時間帯によっては希望に添えないこともあるが、出来る限りご本人のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、散髪、化粧など出来る限り支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせ一緒に行っている。	栄養士が作成した献立を、行事やイベント、嗜好を取り入れて変更し、職員が調理しています。利用者が過ごす対面のキッチンで調理され、匂いが食欲を誘っています。家族から頂いた野菜も食卓を飾り、外での焼き肉は夏場の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えた献立で提供している。水分が不足しがちな方もあるが、状況に応じて支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員、毎食後ではないが一人ひとりに合わせ行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録や情報交換しながらその人に合わせた声かけや支援を行っている。	職員は、一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけ誘導をしています。トイレ排泄を基本に夜間も利用者の習慣に合わせた対応をしています。退院後の身体状況低下改善の取り組みも積極的に行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳や野菜を多く取り入れる、毎日体を動かすなどの取り組みを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決めさせて頂いているが、その中でご本人のペースで入浴できるよう努めている。	土曜日を除き毎日準備しています。週2回は入浴できるように記録を残し、一日2・3人の対応で、利用者はゆっくりと入浴を楽しんでいます。月2回体重の測定で体調管理も行い、身体状況や天候に合わせて、土曜日の対応や足浴も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を把握し、安眠して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会を行うなど理解に努め、変化の確認に努めているが、不十分な部分あり、今後も理解を深めていきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレク、一人ひとりの力に合わせた活動など行っている。嗜好品は支援できていないことがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて外出支援を行っている。普段は行けない場所でも協力を得て対応したい。	一人ひとりの体調に合わせて、近隣の散歩や行事に出かけるようにしています。今年は体調不良の方が多く、遠出が少ない状況でしたが、個別の希望や要望に応えられるようにしています。春の花見や幼稚園の運動会応援、北竜町ヘドドライブし、レストランで食事をしたことなど、楽しい思い出が写真に残っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状況や希望に合わせて所持して頂いている方もありますが、他の方はスタッフ管理で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添えるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物や、温度調節、換気など居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。トイレは混雑することが多い。	ベランダの上方には、採光が十分に取れる天窓があり、明るく開放感のあるリビングとなっています。ソファも沢山配置され、休息の時間には、のんびりと横になっている姿が窺えます。日中の多くをリビングで過ごし、職員の応援で、体操やかるた、嚙下体操で声を発して歌う等、リハビリを兼ねたレクリエーションの場ともなっています。清掃も利用者と一緒に関わる事で、役割りが習慣となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ配置の工夫などでトラブルを避け、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや好みのものを本人やご家族と相談し、持ってきて頂き居心地良く過ごせるようにしている。	クローゼットにベッドが設置された居室は、天窓から眩しいほどの陽光が差し込み、温度や湿度の調整も出来ています。落ち着いた広い空間に、使い慣れた寝具や家具を配置し、写真や作品等の装飾を施し、利用者が居心地良く過ごせる工夫をしています。友人や家族が訪問した時、一緒に語り合う大切な住まいとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、各居室にわかりやすく掲示し自立した生活が出来るよう努めている。		